

ふかまちのまど

第一七八号 〇九年三月一日
発行元 深町町内会連合会
連絡先 六三三八八二

町内会連合会活動報告

河川清掃(二月十五日(日))

町内会連合会 会長 秋本賢治
町内の皆様には、平素から連
合会活動にご協力又ご尽力を頂
きまして有り難うございます。
先日は、早朝より高平・藤井
川及びその支流を町内一斉に草
刈り、廃棄物のゴミ収集等々
清掃が実施されました。由り、
町内の皆様のご協力により、
厚くお礼申し上げます。
川内からも美しいボート等
幼虫のホタルやトンボ等の河
環境をサナギやゴミの投げす
お互いの清流を汚さないよう
お気を付けましょう。
▲に捨て

上組町内会だより

親睦旅行のご案内

上組町内会会長 中村 純



恒例の上組町内会親睦
旅行を次の通り行いますので、
多数のご参加をお願いします。
なお、詳細については追って
会員の皆様にご通知します。
期日 三月二十九日(日)
行程
深大池バス停発七時
秋芳洞(昼食)
山口市内(瑠璃光寺)
深大池バス停着十八時頃

「ふかまちのまど」 ホームページのアドレスは
<http://www.jcat.ne.jp/~fuka/top.html>

子どもを みんなで守りましょう



深小の子どもは
○午後四時頃
下校します。
※日によって、異なることが
あります。
○近くで、遠くで、みんな
見守りましょう。
○あいさつ、
声かけをしましょう。

深小だより

『上善は水の若し』

深小学校長 山本恵司

今年度も残すところ後わずか
になりました。いよいよ各学年
の「まとめ」の時であり、特に
六年生にとつては小学校六年
の集大成とも言える時期です。
心の準備をしつかりとして、新
しい中学校生活で充実した日々
を送り活躍して欲しいと思つて
います。『老子』の第八章にこ
ういふ記述があります。
「上善は水の若し。水は善く万
物を利して争わず、衆人の悪む
所に処る」
最高の善とは水のようなもの
である。水は万物に恩恵を与え
ながら、決して相手に逆らわす
みながら、決してやがる低いところへ
流れていく。という意味ですが、
水には次のような長所がありま
す。

- ①丸い器に入れると丸くなり、
四角い器に入れると四角に
なる。相手に逆らわず、そ
の時の状態や環境に適応し
て、自らの形を変えていく。
- ②すべての物に恩恵を与えな
がら、決して自己主張をせ
ず、反対給付も要求しない。

☆中学校へ向けての決意

射場瑞月

☆私は中学校になったら数学
の勉強を一生懸命がんばり
たいです。

斎藤千有希

☆苦手だった理科の学習をが
んばりたいです。

竹野遼一

☆僕は中学校に入ったら、野
球部に入ってがんばりたい
です。

多田翔貴

☆中学校に入ったら、英語の
教科がはじまるのでがんば
りたいです。

田中聖也

☆化学部に入って様々なこと
を調べたり、勉強したりし
て物知りになりたいです。

原 圭範

☆僕は、中学生になったら、
ロボット研究部の、ゼロハ
ンカーで全国大会に出て優
勝するように頑張ります。

前田美佳

☆私は中学校にいったたくさ
んの友達をつくりたいです。
▲

③誰かが嫌がる低い所へと流
れていく。その在り方たる
や謙虚そのものである。岩
石を打ち砕くには、固い岩
エネルギーを内に秘めて強い
④内にはダイナミックな力を
持つて静かに、表面はあ
くまで静かである。
「上善は水の若し」とは、水
のような長所をふまえて言つた
格言ですが、これからは本心を
立っていき、児童たちからは思
な生き方を心がけて欲しいと思
います。



いろいろな 出会いにありがとう!

深幼稚園後援会会長 寺田 美恵

今年度、深幼稚園の後援会
の業務がなめらかに進んで
いること、おかげです。今年
度も、ご協力をお願いします。
長年のご協力、誠にありが
うございます。今年度も、ご
協力をお願いします。
今年度は、深幼稚園の後援
会の業務がなめらかに進ん
でいること、おかげです。今
年も、ご協力をお願いします。
長年のご協力、誠にありが
うございます。今年度も、ご
協力をお願いします。



「雑草といふ名の植物はない」
と、生物学研究にご熱心であ
つた昭和天皇が言われたそう
です。雑草といわれては、それ
れ名前が、よく見れば大変
役に立っているもの、中には
薬になる草もあり、石垣や傾
地の崩れを防ぐ草もあります。
約三十年間自然農法を実践し
ている友人は、雑草とされた
二年間野積みをして、これを
肥料として使用しています。農
作物が大変元気になっています。
道端や野山の片隅で見捨てら
れたように生えている草花にも
心を傾けてみると、みんな懸
命に生きています。

深町各種団体三月行事予定

上組町内会	二九日
親睦旅行	
小学校・幼稚園	二日
ミニコンサート	
福祉施設訪問	
おたのしみ会	三日
放課後子ども教室	四日
身体測定	六日
廃品回収	八日
六年生を送る会	
諸雑費集金	九日
PTA作業日	十日
読み語りの会	十七日
卒業式	十八日
卒業証書授与式	二十四日
修了式	二十五日
如水館中学・高校	
高校卒業式	一日
中二学習旅行	二日
期末試験	三日
中学卒業式	十三日
終業式	十九日
高校新入生登校日	二十四日



展望席

三月になると何処となく頬を
なでる風にも柔らかなさを感じ、
小川の流れるも人の心も温んで
きて、春の訪れが実感され
ます。時には突然の春雷
に驚かされ、土の中で冬
ごもりしていた虫もそろ
りそろりと這い出てきま
す。また、じつと寒さに耐えて
いた草や花の種もそつと芽を出
してきます。

「蒔かぬ種は生えぬ」とい
ますが、蒔いた種は「一粒万倍」
たった一粒の種から出た芽は成
長して万倍の実を作ることにな
ります。蒔くからには良い種を
蒔き、汗を流して大事に立派に
育て、万倍もの良い種を作り更
に活力を高めたいものです。
しかし、人にとつて価値がないと
判断されたものは雑草として踏
みつけられ、引き抜かれ、棄て
られ、焼かれてしまいます。そ
れでもまた草は生えてきます。
「雑草といふ名の植物はない」
と、生物学研究にご熱心であ
つた昭和天皇が言われたそう
です。雑草といわれては、それ
れ名前が、よく見れば大変
役に立っているもの、中には
薬になる草もあり、石垣や傾
地の崩れを防ぐ草もあります。
約三十年間自然農法を実践し
ている友人は、雑草とされた
二年間野積みをして、これを
肥料として使用しています。農
作物が大変元気になっています。
道端や野山の片隅で見捨てら
れたように生えている草花にも
心を傾けてみると、みんな懸
命に生きています。

パキスタン・カラチに暮らす

「イスラム国家パキスタン」①

中組 福島 健作

私は、平成十七年四月から平成二十年三月の間、文部科学省在外教育施設派遣員として、パキスタンに赴任しました。パキスタンの正式国名は「パキスタン」で、イスラム教の国です。人口は約一億五千万人、国土面積は約八十万平方キロメートルです。首都はイスラマバード、最大の都市はカラチです。パキスタンは、インド洋に面した国で、南にはインド、西にはアフガニスタン、北には中国と接しています。パキスタンの歴史は古く、古代文明の中心地として栄え、イスラム教がもたらした文化の融合が、その独特の文化を形成しました。現在は、民主主義の発展を目指して、政治的・経済的変革を進めています。



独立記念日のパキスタン人

パキスタンの正式国名は「パキスタン」で、イスラム教の国です。人口は約一億五千万人、国土面積は約八十万平方キロメートルです。首都はイスラマバード、最大の都市はカラチです。パキスタンは、インド洋に面した国で、南にはインド、西にはアフガニスタン、北には中国と接しています。パキスタンの歴史は古く、古代文明の中心地として栄え、イスラム教がもたらした文化の融合が、その独特の文化を形成しました。現在は、民主主義の発展を目指して、政治的・経済的変革を進めています。

鈴木三重吉賞

☆佳作(作文の部)

深小 四年 多田翼哉



「お父さんありがとう」

「お父さんありがとう」
お父さん、いつもありがとうございます。お母さんと二人で帰ったお父さんに、兄ちゃんとお父さん、いつもありがとうございます。お父さん、いつもありがとうございます。お母さんと二人で帰ったお父さんに、兄ちゃんとお父さん、いつもありがとうございます。お父さん、いつもありがとうございます。お母さんと二人で帰ったお父さんに、兄ちゃんとお父さん、いつもありがとうございます。

歩く会(ママ)参加を

健康づくり推進員 高崎修



行先 久井の岩海と天文台
月日 三月十五日(日)
行程 上組公民館八時出発(車) 久井の岩海九時出発(徒歩) 宇根山天文台着十時(観覧) 岩海着十一時(車) 上組公民館帰着 十二時頃

短歌・俳句・詩
中組 仲峠講 竹内ひろみつ
姫椿花の盛りは過ぎたれど
目白は寄りて密を吸いおり
バイク乗る孫見守りつ気を遣い
口内炎に悩まされる日々
お年寄り可愛いと妻は夜勤に

中学校生活を通して

如水館中学校三年 安藤 千晶



私が如水館中学校で三年間頑張ったことは、部活動です。陸上部に入り、長距離を走りました。厳しい練習をしても思うように結果が出ないことも多くありましたが、仲間と励みあうことが、乗り越えることができました。中学校生活を通して、仲間との絆や、自己突破の大切さを学びました。

「みはらし環境会議」②

中組 安藤 志保

五地域の環境会議実践組織の活動がそれぞれ始まり、二月七日は久井町の活動に参加しました。御調川の清掃と雑木整備です。ゴミが散乱する川に下りてみると、そこはなんと長年積み重なったゴミの地層！路側帯が広くなっている所に車を停めてゴミを捨てる人が多いようです。ゴミが捨てられていないことは知っていたけれど、まさかこんなにあるとは！とみなさんびっくりしておられました。バイク、タイヤ、家電、食器、鉄、ガラス：と何でもあるもの、いちばん多いのは空き缶・ペットボトル、お弁当ガラ、それらが入ったレジ袋。



ポイ捨てには個人のモラルの問題があることはもちろんですが、経済優先で使い捨て商品を増やし、手軽に買えて手軽に捨てられる文化を進めてきた日本の政策にも大きな問題があります。飲み(食)終わった空き容器をお店に戻して容器代を返金してもらおう仕組みはとても合理的で、環境先進国では当たり前。「デポジット(預かり金)制度」と呼ばれて日本でも見直されています！そんな呼び方もない頃の日本ではちゃんとやっていたことですね。

ピッコロだより

(知的障害者授産施設)

野菜苗は彼岸頃販売



春、ポカポカ陽気になったら、何となく外へと気持ちも足も向きますが、皆さんは何をしようと思いませんか？ピッコロのハウスの中は、ミムラス、マリーゴールド、サルビア、ベコニア等の花で満開になります。野菜の苗(ハクサイ、ブロッコリー、サニタス、キヤベツ等)はお彼岸すぎ頃販売する予定です。きれいなお花を植えたり、新鮮な野菜など植えて楽しみましょう。四月には皆実町にあるピッコロガーデンを再開催します。鉢物を主体に販売を考えています。お楽しみにお待ち下さい。

ありがとう

綱掛 翔

初めて、中学校に来たときは、知らない人がたくさんいた。僕は、小さな小学校から来たので、こんなに多くの人を目にするのは、初めてだったので、心臓の音がすごく聞こえた。その時に「お前も、同じクラス？」と聞いてくる人がいた。それは、ソフトボールで会った事のある人だった。一瞬、ビックリしたが、少し安心した。知っている人がいるだけで、こんなに安心感を持てるのかあと思っただけ。

僕は、その人とは、かなり仲のいい友達となった。二年生、三年生と違うクラスになったけど、今でもかなり、仲のいい友達だ。僕は、その友達とは、行く高校が違っている。けど、その友達とは、高校が違っている。僕も、今まで通り、仲のいい友達でいると思っただけ。僕は他にも、友達がたくさんいる。みんなバラバラになっても、友達でありたいと思っただけ。そして、高校に行くと、また新しい友達を作った。たくさん友達を作った。

友達がいなかった僕は、今こうして笑顔でいられるのだと思う。僕は、大切に思っているものは、友達や家族や先生だ。僕は、この大切なものを、もっと大切に、絆を深めていこうと思っただけ。僕の大切な人達、ありがとう。



最後の試合

森 雄 太 郎

秋、新人戦三回戦と試合をして一回戦負け「二中は強い」と思っていたからとてもやしかった。その日からつらい練習が始まった。毎日放課後練習で二十本ダッシュをした。冬にはもつとつくなり上り坂を十二往復したあと二中のグラウンドにもどってタイヤ引きや肩車などの筋トレ、この練習メニュー、土、日と冬休みには毎日やった。とてもしんどくてやめたくなった時もあった。

春、保護者の人と先生になんども練習試合に連れていってもらって三原にある中学校だけでなく東広島のような遠い所でも試合ができた。秋の新人戦以来の市内大会は、とても緊張していたけど試合が始まると楽しく試合ができた。

その市内大会で勢いづく事ができた僕は、南部で二位になり県大会に出ることができた。とてもうれしくなったけど結局県大会は一回戦で負け、くやしくその時以上に練習して夏の市内と南部を勝ち二回戦の県大会出場をすることができた。だけどその県大会も一回戦で負けて試合のあとグラウンドから出たとき涙が出た。

今までがんばってきた、冬も夏もずつときびしい練習をしたのに一回戦負けでくやしいだけでなくもうこのチームで野球ができないのがとてもいやだった。

女子卓球部の練習内容

力 武 扶 美 子

私は、三年間卓球部に所属していたので、その練習と大会について書きたいと思います。

二中の卓球女子の練習は、ランニングとか基礎練習とか全然なくて、適当に仲の良い子と、ほぼルールなしで「打ち合う」ものです。大会が近づいてもそれは変わりません。時々これは良くないからメニューを変えようかな、と私が一瞬考えたりしますが、一瞬後には面倒だからやめようという考えになります。大会が近づいたら、皆少し気合が入ると、考えたこともありません。実際、大会間近になったら、皆真面目になります。私も女子の強い子と、全力以上の力を出して戦ったりします。そうすると達成感が出てきて、もうこれで大丈夫、という気持ちになるのです。

私の大会での目標は、「二敗してもいいけど絶対一勝以上はする」です。この目標は一年のころからずっと守られていたし、二年三年になると、勝つ回数も増えて、満足していました。ただ、入賞することは一度もありませんでした。

大会で、強い学校のラリーを見ていると、慣れていて上手で速いです。やっぱり基礎練習やっていると、私達のためだなあ、とその度に思いました。あの頃は、だめだなあと考えただけでしたが、最近、それはいいなと思っただけです。物事は細かいことの積み重ねによって成り立っている気がしてきました。一瞬頑張った瞬間の達成感、積み重ねの何の役にも立っていない、と最近気づかれました。



私の後輩たちは、今でも同じような練習をしているでしょうが、誰かが練習内容を変えてくれたら嬉しいです。



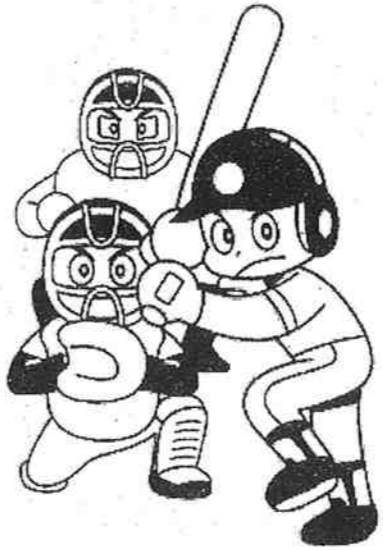
ケムシへの思い

湯 浅 圭 祐

僕の所属していたクラブは野球でした。また入ったばかりの僕には野球部の強さは分かりませんでした。僕が一年生の時の三年生の先輩の最後の試合は一回戦負けで、負けた時に先輩達はとても悔しそうに泣いていました。

時が過ぎて行き僕が三年生になった時にメンバー発表があり、僕はメンバーに選ばれませんでした。そこから僕は野球が嫌いになり、秋の新人戦も一回戦負けでした。しかも負けた日から練習がとて厳しくな

つて土、日曜日毎日練習はつかりでした。やがて冬が来て冬の練習は、坂道ダッシュや筋トレばかりでボールすら触らせてもらえずに毎日の練習がとても厳しく嫌々で練習に出ていました。冬を乗り越えて、春が来て、大きな大会があり「どうせ負けるだろう」と思っていました。しかし、大会では一目全勝で二日目に入り一回戦目は強豪チームでした。強豪チームとは接戦でした。接戦の末、勝ちました。次の試合も勝って結果は優勝、僕達の夢の県大会に出場することが出来ました。飛び上がるほどうれしくて、保護者の方々と先生達に「よくやった」と言われたときは涙が出そうでした。



未来

新 谷 真 央

この三年間は、本当に短かった。小学校の半分だからとかではなく、本当に文字通り「飛ばす」ように流れていった。

初めてこの学校の門をくぐったとき、二年という時間がとてつもなく長いように感じた。これから先の長い時間、どうなるのかと思つと不安で不安でしようがなかったのがもう二年も前のことだ。初めはとにかく緊張して、勉強に部活にと新しいことはばかりで、なんだか忙しかった。でも一年も通えば慣れるもので、二年生になるとこの学校に通うことに違和感を感じなくなっていた。でも進級した実感がわかず、クラブに入ってきた後輩を見てやけに変な感じだったのを覚えていた。二年生になったら、職場体験学習だの修学旅行だの楽しいこと楽しみにしていたことが盛り沢山で、この三年間を振り返って一番楽しい年だった。でも楽しさの反面、反省すべき点も沢山あった。怠けたり手を抜いたり、一年のときの真面目さが影も形もないくらいで、駄目な所が一杯出てきた。

でも、そんな経験も、今振り返ってみれば、笑える「過去の話」になっている。きっとこれからも、楽しいことや心に残るほど感動すること、逆に苦しいことや忘れられないほど辛い経験もあるだろう。でもこれから先、また今のように、こんなこともあったなあ、と笑って思い出にしているようにしたい。だから、今を出来る限り楽しく、後悔の無いように生きて、これから先の未来に、また笑って過去を振り返ることが出来るようにしたい。

野球部の愉快な仲間たちへ

植田 峻 輔

新人戦初戦敗退。このとき自分はものすごく情けなかった。でもこの部員も責め合うようなことはしなかった。

大会が終わり冬トレーニングが始まった。冬トレーニングはきつくて途中でやめたくなったが、ここでも仲間が救われた。仲間のおかげで楽しく冬トレを終えることができた。春夏絶対優勝する。と、このとき初めて自信を持ってそう思った。こう思えたのも仲間のおかげだと思った。

なんと春の南部大会では優勝して県大会出場を決めた。すごくうれしかった。いつも以上に練習にも気合が入りついに本番を迎えた。なんともいえない雰囲気の中で緊張してしまい思った通りに体が動かさず負けてしまった。すごく悔しくて、絶対またここでリベンジしてやるという思いがこみあげてきた。夏の市内大会も優勝、南部大会もいけると思ったがそう簡単にはいかなかった。準々決勝、一対0でリードされていた。最終回、市内大会では六点点差をひっくり返すということもあつたがこの試合の一点はずく遠い気がした。もう終わってしまうと思った。でも二点を取りサヨナラ勝ち。また準々決勝なのに涙がでそうだった。この勝ちで勢いに乗り、南部大会優勝。またあの舞台上に立てると思つたらすごくわくわくした。県大会ではまた負けてしまったが、仲間と楽しく野球をやれてここまで来れたから悔いはなかった。

最後に先生方、保護者の方々、支えてくださった方ありがとうございました。そして頼りない主将と最後まで楽しく野球をした愉快な仲間達に、すごく感謝している。本当に今までありがとう。みんなと野球できたことは、僕の一生の宝になるだろう。



クラブの思い出

小柴 浩 樹

一年から三年まで僕は、サッカー部に入っていた。でも一年のころ僕はサッカーには興味がなかった。友に誘われて入ってしまった。一年ならまだ大丈夫だと思つた。でも、同じ一年がやめて、影で悪口を言われていた僕は、そういうのがいやだった。友がいるならやつていけると思つたけど、一年生になる前の春その友達と転校してしまつた。僕がサッカー部にいる意味がなくなつた。やめようと思つたけどやめられなかった。

たつた一人のキーパーになつていたからだ。僕がやめると人数的にきつくなるからだ。しぶしぶもう一年やることになった。時々サッカー仲間にはサッカーは好きかと聞かれた。僕は嫌われたくないのでみんなに好きだといつてしまつた。でもそんな自分がいやだった。三年生になつて新一年が入つてきた。その中に

キーパーがいた。これでサッカー部にいる理由はなくなつた。でも、やめたくはなかつた。親には、二年でクラブを変えても、仕方がないと言つてごまかしていたが、心のどこかで楽しいという気持ちがあつたからだ。そして、僕は、三年間サッカーをやつてきて、達成感があつた途中でやめてしまつたらこんな気持ちになれなかつたと思つた。サッカーに誘つてくれた友やサッカー仲間には感謝している。

全てが光る思い出

村田 繭

「私の中学校生活は自慢の青春、迷わずそう言えます。楽しかつた事、つらかつた事、本当にたくさん思い出がつまっています。私がこう思える一番の理由は、やはりクラブ活動があつたからだと思います。一年生の頃からみんなと一緒に高い目標を持って頑張つてきました。そして最後の市内大会で優勝・県大会でベスト8という結果を残すことができました。テニスはたくさん思い出を作らせてくれ、たくさん事を学ばせてくれました。最後の引退の日、私は三年間のことを思い出して泣きました。自分のことだけでなく、みんなのいろんな顔もほとんど浮かんできました。試合に勝つた時の喜んでる顔、はしゃいでいる時の笑つてる顔、試合に負けた時の落ち込んでる顔、悩んでいる顔……。クラブ生活は思い出深く、やめたくない気持ちでいっぱいでした。」



今まで多くの試合に勝つたのは、たくさん練習してきたのもあるけれど、私はチームワークがよかつたからだと思います。一人ひとりがんばるに上手でも、チームワークが無ければ上に進むことはできません。声が枯れる位応援して、一試合ずつ抱き合ひながら喜び、みんなで目標に向かって頑張る。二テニス部は、私にとって一番のクラブでした。絆を深く深く感じることができました。

私はたくさんの人に支えられ、思い出を共に作つてもらつたのでお礼を言いたいです。テニス部のみんな、たくさんの方、家族、コーチ、先生、友達のお父さんお母さん、本当にありがとうございました。



無駄ではなかつた努力

岸 海 甫

「ゲームセット」僕たちの中学での野球は、この審判の声と共に終わった。僕は涙が止まらなかつた。その涙は試合に負けた悔しさや、もうこの仲間達と野球ができない寂しさからだつたが、それだけではなかつた。肘を怪我をしていて、試合に出場できない悔しさからでもあつた。

去年の春、僕たちは大会に向けて必死に練習していた。厳しい練習だつたが、僕はレギュラーになるためにがんばつてきた。しかし、ある日キャッチボールをしている時に肘痛みを感じたので練習後に病院に行った。そこで医者から「野球肘」といわれたのだ。とてもショックだつた。こんな大切な時期に怪我をして、今までの努力が水の泡になつた気がしたからだ。その日から必死にリハビリをしたがなかなか治らなかつた。焦りから肘が治つていないのにボールを投げて悪化させてしまつこともあつた。そして、怪我が治らないまま中学で最後の大会となった県大会をむかえた。惜しくも1回戦で敗退してしまつた。その時はグラウンドではなくベンチの中にいた。

思い返してみればこの3年間は悔いが残ることばかりだつた。しかし、これまでの努力は決して無駄ではなかつた。今では思う。高校ではこの悔しさを忘れず、悔いが残らないように野球をがんばりたい。

最後に、朝早く起きて弁当を作つてくれた母に、野球だけではなくいろいろなお事をおしえてくれた父や保護者の方や先生方に、厳しい練習をみんなでのりこえてきた二中野球部員に心からいいたい。三年間ありがとうございました。



友達と過ごした日々

畑 中 真 璃 乃

私は、中学校の三年間で勉強以外にもたくさん事を学びました。その中で嬉しかつた事や辛かつた事などたくさん思い出が来ました。

私が三年間で一番学んだ事は友達の大切さです。「友達は大切」って分かつたつもりでしたが実際は全く分かつてなかつたんだなと気付きました。前までは、とにかく一緒に騒いで話して常に一緒にいる事が友達だと考えていました。でも今は、一緒にいるだけでなく、悪い時には悪いと言つてくれる人が本当の友達だと思つています。

ただ騒ぐだけなら、信頼や相手の事を大切に想う気持ちはいらなと思います。でも悪い時、悪いと言つるのは相手をちゃんと大切にしたい、想いやりやお互いの信頼があるのではないかなと思つていました。

辛い時、いつも一緒にいて笑つてくれる友達がいたことにすごく感謝しています。悩みを聞いて励ましてくれた友達の一言一言を今までもこれからも忘れる事はあります。

辛い事も嬉しい事もたくさんあつた三年間でした。辛い時何度も支えてくれた先生や友達、嬉しい時自分の事のように一緒に喜んでくれた友達の事を決して忘れずこれからもたくさん事を学びながら日々成長していきたいです。